

# 道徳教育で児童の自尊感情を養う

松本 賢人 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 谷川 尚己

キーワード：自尊感情,モラルジレンマ

## 1. 緒言

近年,子どもの自尊感情の低下が明らかになっている.平成 20 年度の自尊感情や自己肯定感に関する意識調査において「自分のことが好きだ」という質問に対して小学校の低学年で約 2 割,中学年で約 3 割,高学年で 5 割もの児童が否定的な傾向にあり,また「私にはよいところがあります」という質問に対して小学校の低学年で約 1 割,中学年で 2 割,高学年で 3 割もの児童が否定的な傾向にある.

本研究では,自尊感情の定義づけを行い,自尊感情を養うための当該問題・分野に関するこれまでの研究論文の結果・結論を総括し,それらの関係や残された未解決の問題,今後の発展方向などを展望することを目的とする.

## 2. 研究方法

児童の自尊感情を高める・養うための当該問題・分野に関するこれまでの研究論文をもとに検討を加えた.

## 3. 結果と考察

モラルジレンマ資料によって主人公の行動に対して「是」か「非」の 2 つに分かれてディスカッションを行い,多くのさまざまな価値観や考え方に触れることで児童の自尊感情に大きな影響を与えることがわかった.モラルジレンマ資料は,オープンエンドであるため児童がのびのびと発言することができる.ディスカッションの中でさまざまな価値観や考えに触れることでより多くの立場へと役割取得ができるようになった.資料の中に出てくる登場人物それぞれ

の立場の気持ちを多面的にとらえることが児童の自尊感情により影響を与えることがわかった.年間指導計画を立てることで,他教科と関連させることで道徳の時間だけで学ぶことが難しい範囲を補うことができる.モラルジレンマ資料は,さまざまな価値観や考えに触れてより深いところまで思考を働かせることで道徳的価値を一層児童に感じさせることができる.今後学んだことを目の前にある課題に応じて活用できるよう自分の中で筋道を立てて自分の考えとして整理することが求められる.「補充」「深化」「統合」により,道徳的価値及び児童の自尊感情を高めることができる考える.

## 4. まとめ

モラルジレンマ資料や他教科との連携によって児童の自尊感情は高まることがわかった.より効果的に自尊感情を高めるには,5 つの観点(「自分への気づき」「自分の役割」「自分の個性と多様な価値観」「自分の可能性」「他者とのかかわりと感謝」)を考慮に入れた指導も必要であり,児童の発達段階を沿った指導を心掛けることが重要だ.

## 5. 引用・参考文献

坂本千代 (2004) 自尊感情を育てる道徳の時間の指導の工夫 東京都教職員研修センター紀要 88-457

大西文行,徳永悦郎,杉本交史(1999) コールバーグの道徳性発達理論と我が国の道徳教育日本教育心理学会総会発表論文集 (41) 87